

# F16 嘉手納に12機飛来

## 米州軍が初 町長「機能強化だ」

【嘉手納】15日午後、米軍嘉手納基地に米ウイスコンシン州の空軍州兵部隊のF16戦闘機12機が飛来した。嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会(三連協)の会長を務める富山宏嘉手納町長は「外来機の飛来は基地の機能強化で断固反対だ」と語気を強めた。

F16は午後3時46分から5時までの間に飛来。北谷町砂辺方面から着陸し、そのまま格納庫へ向かった。空軍の予備部隊である州兵の航空機や兵員が、嘉手納に配備されるのは初めて。12機と兵員約250人は約3〜4カ月間、嘉手納を拠点に災害救助や海賊対策などの訓練を実施する。

これに対し、嘉手納町議会は16日に臨時議会を開き、F16飛来に抗議する決議と意見書を提出する。

また、嘉手納では年明けから航空機の騒音発生回数が増加。町の調査では13日に町役場で213回、屋良



地区民家で200回、兼久体育館で132回と、本年度で最も多かった。

富山町長は「F16の暫定配備でさらなる状況悪化が懸念される。負担軽減の約束を守ってほしい」と述べ、三連協でも抗議する意向を

治会長は「これだけ地域住民が負担増に反対する中で、外来機が飛来するのはおかしい。住民の気持ちをないがしろにしているのではないか」と話す。北谷町砂辺の伊禮嶺生自治会長は「なぜ州兵の訓練をここでやるのか。多くの外来機が飛来して、ますます騒音が激しくなる。どこが負担軽減なのか」と憤った。

米軍嘉手納基地に着陸するウイスコンシン州兵部隊所属のF16戦闘機15日午後4時21分(大城弘明撮影)

明らかにした。

恒常的な騒音被害を受けている町東区の島袋敏雄自